



学校図書館サポートキャラクター
としょえもん

としょえもん

学校図書館サポートセンター広報紙

みんなに知ってほしい！
世界が広がる学校図書館
の魅力をお伝えします。

令和2年度
第2号

「はちおうじ読書の日」 給食コラボでおいしくたのしく



はちおうじ食育キャラクター
はっちくん

10月27日

小学校で給食とコラボしたのは、なかやみわ作『やさいのがっこうとまとちゃんのたびだち』（白泉社）です。



赤くおいしいトマトになって野菜の学校を卒業したとまとちゃんが、ドライカレーに入って登場。小宮小学校では、放送での給食委員によるコラボ給食についての紹介と司書による読み聞かせ、宇津木台小学校では、給食委員による放送と栄養士の読み聞かせ（給食の時間に教室で）を行いました。

(栄養士の読み聞かせ)

当日、子どもたちはカレーを食べながら、真剣に絵本を見つめていました。最後に司書から図書室に置いて



あることと、同作家の絵本『そらまめくんのいちにち』や『どんぐりむらのぼうしやさん』を紹介すると、「持ってる！」「そうなんだ」と嬉しそうに反応していました。どちらの学校も給食後すぐに貸出しになりました。

(小宮・宇津木台小学校 学校司書)

今年、中学校で給食とコラボした本は、瀬尾まいこ作『そして、バトンは渡された』（文藝春秋）です。中学校では給食の提供体制がいくつかあるため、顔を合わせて話し合うことが難しく、栄養士さんや先生方と連絡を取り合って企画を進めました。栄養士さんのさい配で、食育メモに担当司書のコメントを掲載してもらい、当日は図書委員長が給食コラボについて、さらに詳しく校内放送で知らせてくれました。また、物語の主人公が、お父さんに作ってもらったごはんで元気を出したことにちなんで、先生・職員の方の元気の素となった、ごはんにもつわるエピソードを書いていただき、図書館内に掲示しました。読むと、先生・職員さんの魅力とみなさんを支えた人の愛情が伝わってきて温かい気持ちになりました。

(宮上中学校 学校司書)



(中学では図書館内に掲示)

誰でも一度は本を読んで、「これ、おいしそうだな」「食べたいな」と思ったことがあるのではないのでしょうか。図書コラボ給食はその逆で、おいしいものを食べて、「読んでみたいな」と思ってもらいたいという取組です。

本に興味を持ってもらうための入り口はたくさんあると思います。学校図書館サポートセンターでは、みなさんにたくさんの入り口を見つけてもらえるような企画を行いたいと考えています。「こんな入り口があったよ」という新しい発見は、ぜひ学校図書館サポートセンターまでお寄せください。

(右:小学校給食のドライカレー)





おめでとう！日本遺産

「**靈氣満山 高尾山** ～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～」



養蚕や織物で発展してきた八王子の歴史を、高尾山とのつながりによって、過去から現在、そして未来へ紡いでいく物語。市内のあちらこちらでポスターを見ることができます。

中でも高尾山は、標高 599 m、1600 種の植物・100 種の野鳥・20 種の動物・5000 種の昆虫が生息していると言われ、年間 250 万人以上のハイカーが訪れます。



*高尾山/八王子市公式ページ
<https://www.city.hachioji.tokyo.jp>
*高尾登山電鉄 <https://www.takaotozan.co.jp>

葉が色付き始めた 10 月、美山小学校は全校遠足で高尾山に行きました。事前に学校の図書室で高尾山の絵本を読み、当日は高尾山ビジターセンターにて、「木と生きものつながり」のお話をいただきました。どんぐりの落ちる音・鳥のさえずりを聴きながら、富士山や新宿の高層ビルも見える高尾山に登り、八王子の魅力をますます感じる事ができたことでしょうか。疑問に感じたことを調べるために、学校図書館“八王子コーナー”のさらなる充実を図ります。



(美山小学校 学校司書)



校長先生！おすすめは何ですか？

『小さき者へ』 重松清/新潮社

この人の描く中年男性はどうしてこうもチャーミングなのだろう。本書は父と家族を描いた6篇からなる短編集である。表題『小さき者へ』は、心を閉ざし部屋から出てくることのない14歳の息子にあてて、手紙を書く父の話だ。いつどこで間違ってしまったのだろう、父親の苦悩に胸が痛む。おすすめは「団旗はためくもとに」。学生時代に応援団長だった「あたし」の父は中年になった今も角刈り。頭も胴体も四角くて、参観日に教室に入ると友だちが「やくざが来たー」。座右の銘は「押忍」、今もいろいろな人にエールを送り続けている。

突然「高校をやめる」と宣言した「あたし」に父はエールを送ってくれるのか？父娘のビミョウな距離と心の交流にほっこりし、中退上等！と元気がもらえる作品である。

中山中学校 校長 藤塚 康子

『ぼくたちはなぜ、学校へ行くのか』

石井光太/ポプラ社

全校の読み聞かせ朝会で、ノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんの話『ぼくたちはなぜ、学校へ行くのか』-石井光太著-を紹介した時のこと。○じゅうでうたれてもひき下がらないで「学校に行きたい！」って言いつづけたのがすごい。そのことばがすごく心にひびきました。(2年)
○マララさんの言葉で世界を動かしたと思います。一番心に残ったのは、「今、私に何ができるか考える。」私は一度も考えたことがありませんでした。(4年)
○言葉の力ってすごいな。これから、自分の言葉を大切にしたいと思った。(5年)

1年から6年まで全員の感想文から、子どもたちの「感じ取る力」に感動した1冊です。

上柚木小学校 校長 町田千恵美

「学校図書館ボランティアのためのミニブック」
学校図書館ボランティアのみなさん向けの手引を作成中です。学校を通して配布します。

発行:令和2年(2020年)12月10日



八王子市教育委員会指導課
学校図書館サポートセンター

問い合わせ:042-664-1135